

令和6年4月1日

令和6年度 大田区立石川台中学校 学校経営計画

大田区立石川台中学校
校長 小菅 みちる

【学校の教育目標】

○思考力に富む生徒を育てる
○実行力のある生徒を育てる
○情操の豊かな生徒を育てる
を受け、「これからの社会に貢献する人間性豊かで品格あるたくましい人」
を育てる。

1 目指す学校像

- (1) 今日が楽しく、明日が待ち遠しい、笑顔のある学校。
- (2) 一人ひとりにとっての居場所・活躍場所があり、生き生きと活動できる学校。
- (3) 生徒が誇りをもち、家庭・地域から信頼される学校。

2 目指す生徒像

- (1) 気持ちのよいあいさつをすることができる生徒
- (2) 確かな学力・豊かな心・健やかな体をもった実行力のある生徒
- (3) 自分の未来を切り拓くことのできる生徒

※ ABCの実践！！（あたりまえのことをばかにしないでちゃんとやる）

3 学校経営目標

(1) 中期的目標と方策

- ① 目の前の生徒のために何ができるかを行動指針とする。
 - ・問題行動等の早期発見、迅速で的確な対応を目指し、組織的に課題解決に取り組む。
 - ・「デイリーライフ」（A組は連絡帳）の活用により子どもの心を素早くキャッチするとともに、時間を効率的に使い、生徒と向き合う時間を確保する。
- ② いじめ・体罰等の根絶を図り、安心・安全な教育活動を展開する。
 - ・石川台中学校いじめ防止基本方針に基づき組織的に対応し、未然防止・早期発見・早期解決を目指す。

- ・報告・連絡・相談・確認・記録を徹底し、全教職員で対応する。
- ③ 創意工夫された授業を行い、授業で信頼関係を築く。
 - ・教材研究及び生徒理解に資する研修に努め、わかる授業・楽しい授業・参加できる授業を実現する。
 - ・校内研究の取り組みを意欲的に実践し、授業力を向上させる。
- ④ 家庭と協力し、家庭教育の充実と学習習慣の確立を図る。
 - ・保護者に家庭教育の重要性についての理解と協力をお願いする。
 - ・「デイリーライフ」の充実した活用を図り、家庭学習を確立する。
- ⑤ 事前指導及び事後指導を充実させ、教育効果を高める。
 - ・道徳、総合的な学習の時間、特別活動における諸活動の活用を図る。
 - ・諸活動の成果が発表できる場を意図的、計画的に設けることでより教育効果を高める。
- ⑥ 小中連携を深め、中学校教育の基盤づくりを行う。
 - ・学区の小学校を中心とした交流・連携活動を通して中1ギャップの解消を図る。
 - ・教科における小中連携をさらに深め、中学校入学時の学力の基盤づくりを行う。
- ⑦ 生徒・保護者・地域の語り合いを大切にした教育を推進する。
 - ・生活指導は対話を重視し、信頼関係を築く絶好の機会とする。
 - ・地域の諸行事に参加し、地域に根ざした学校づくりを行う。
- ⑧ 教職員一人ひとりが生徒のためにできる「何か」を実行する。
 - ・来校者への挨拶や、迅速・丁寧な電話対応を行う。
 - ・鮮度の高い校内掲示、潤いのある校内美化に努める。
- ⑨ 情報の共有に心配りし、公平で公正な明るい職場環境をつくる。
 - ・教職員は、常に組織の一員であることを自覚し、協力・協同して対処していく。
 - ・互いに心配りし、時間管理・健康管理に努める。

(2) 今年度の取組と方策

① 学力向上の推進

- ア 生徒が主体的・対話的に取り組み、深い学びを得ることができる授業を実践する。
- イ 各学力調査結果の分析やアンケート結果により、生徒の実態に即した授業改善を行う。
- ウ ICT機器を活用し、個別最適化した指導を実践する。
- エ 国語科のみならず、各教科において広義の「読解力」を向上させる指導を推進する。
- オ 学習補助員による授業補助、放課後補習教室によって基礎基本の定着を

図る。

カ 夏季補充教室を実施し、少人数指導・個別対応を行うことで学力の底上げをする。

② 生活指導の充実

ア いじめ・不登校・その他問題行動等、常に一手先を見通した予防的生活指導及び初期対応に全力をあげる。

イ 「石中生のあたりまえ」を浸透させることにより、あいさつ・時間管理・身だしなみ・公共の場での言動・他者への思いやりについて意識させるとともに、実践を図る。

【石中生のあたりまえ】

①あいさつ・返事は元気よく！

②チャイム始業！

③自ら正す『フォーマルゾーン』・人を認める『デイリーライフ』！

ウ 美化活動に努め、人権教育の視点に立った掲示物や言語環境を整える。

エ 日常の生徒との会話を重視するとともに、メンタルヘルスチェック・WEB-QUの分析を通して、生徒の悩み等の早期発見・早期対応に努める。

オ スクールカウンセラーによる全員面接を全学年で実施するとともに、いつでもだれにでも相談できる環境を整える。

③ 進路指導・行事などを通して

ア 生徒理解を深め、生徒の個性・創造性・人権を尊重した進路指導に努める。

イ 学校生活における目標・憧れ・意欲の向上・自己肯定感・自尊感情の取得を目指し、3年生～1年生の縦割り活動の機会を設ける。

ウ 感動的な三大行事「体育祭」「けやき祭」「石中フェスティバル」を継承し、発展させる。

エ 道徳の時間を要とし、全教育活動において道徳教育を推進する。

オ 体育的行事、総合的な学習の時間、学級活動等を通じて、健康への理解を深めさせるとともに、体力の向上を図る。

カ 体験活動を重視するとともに、生徒の発表の機会を多く設ける。

④ 特別支援教育のさらなる充実

ア 開級4年目となる特別支援学級A組がより安定し、充実した学習・生活ができるよう、全校をあげて取り組む。

イ 各行事・授業等において、特別支援学級と通常学級との交流の機会を設

け、心の教育を推進する。

ウ 特別支援教育に関する研修を計画的に行い、特別支援教育に対する教職員の理解を一層深め、実践に役立てる。

エ 通常学級においても授業のユニバーサルデザイン化に努め、インクルーシブ教育の推進を図る。

⑤ 教職員の資質・指導力の向上

ア 各教科の年間計画や授業改善推進プランに基づき、指導方法の工夫・改善を行う。

イ 校内研修の一層の充実を図るとともに、校内OJTを推進する。

ウ 教職員各自が自己のキャリアプランに基づき、課題を明確にし、校外での研修・研究会に参加し、自己研鑽に努める。

エ 教育公務員としての使命を自覚し、服務規律を厳守して学校教育における信頼の確保に努める。

オ 教員、事務、用務、給食他、職員相互の理解に努め、明るい職場の中で共通理解・協働による実践を進める。

⑥ 保護者・地域との連携

ア 家庭での協力を得て、早寝・早起き・朝ごはんを推奨し、心身ともに健康な生徒の育成を目指す。

イ 地域教育連絡協議会との連携を図り、保護者アンケート、生徒アンケートを実施し、自己評価を学校ホームページに公開することにより、開かれた学校づくりを目指すとともに、教育計画の内容の改善・充実・向上に努める。

ウ 学校支援地域本部（S. S. I.）の協力を得るなどして、地域の教育力を活用する。

エ 地域行事においては生徒のボランティア活動を推奨し、地域の一員である自覚を促すとともに、社会に貢献する姿勢を養う。

オ 地震等の災害に備え、学校防災拠点校として地域との連携した訓練を行う。